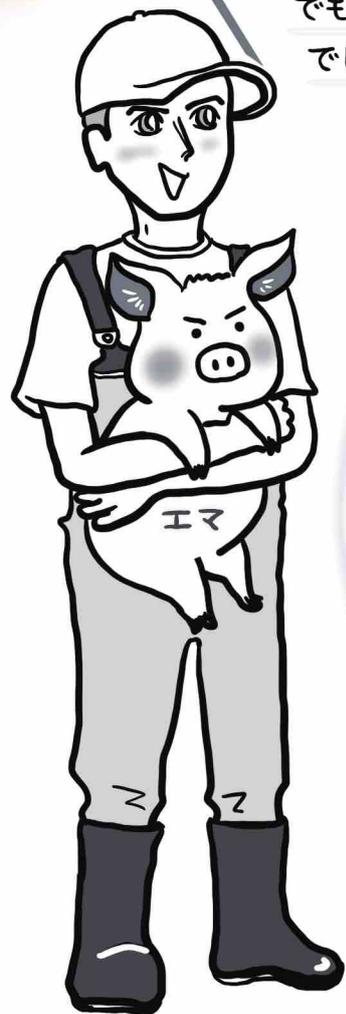


ビッグ・リトル・ファーム

夫婦と保護犬が8年かけてつくった理想の農場
... Story ...

カルフォルニアの広大な農地で アパートに住み、スーパーで野菜を
理想の暮らしを叶えたジョンとモリ。 買って食べていました。ある日、一匹の
でも道のりは平坦ではありません 犬(トッド)を保護したことで二人
でした。二人は昔はロサンゼルスで 人生は大きく動き出すのです...!

映画



ジョン ドキュメンタリー映画の監督なので、本作も息をのむ美しさ!



命の循環

土や虫や花、
動物たちと
共に生きている。



モリ シェフ・料理ブロガーから農業主に転身をし夢を叶えていく

愛犬トッドと暮らすため、農場を作る!でもいざ農業を始めると...
せっかく実った果物を虫や鳥に喰われたり、卵を産むニワトリが

コヨーテに襲われたり。それでも二人は「駆除」ではなく「共存」を目指していく。

今年も オンライン セミナー

始めます。基礎から一緒に学びましょう。
くわしくは2ページ以降ぞ!



母なる地球を守ろう研究所



Message1



“おいしい”から有機を選ぶ

環境にも身体にもやさしい食事をしよう

石研 究員
モリぞう

Message2



みんなで力を合わせて日本でもビッグリトル・ファームを始めませんか!?



石研 究員
まあお

ひろし

記録映画「ビッグリトルファーム」がどうしてうまくいくようになったのか、アグロエコロジーの専門家が解説

長谷川浩（理事長）

日本も含むほとんどの国において、この数十年間単作化（モノカルチャー）が進みました。農業も工業や商業のように儲けるためです。その結果、土壌は劣化し、害虫や病気の害を防ぐための大量の農薬使用、農業の生物多様性は失われてしまいました。それでも飽き足らず、熱帯雨林を破壊した農地拡大は止まらず、地球規模の環境破壊の元凶として非難されています。

農業の多作化（単作化の反対）を進めることで、土壌を肥沃にし、生物多様性を回復し、農薬や化学肥料に依存することなく（究極は無農薬無化学肥料）食べ物を生産する方法が、世界中で広がりつつあります。有機農法、パーマカルチャー、環境再生型農業(Regenerative Agriculture) などと呼ばれます。このような農法の学問的基礎が、農学に生態学の考えを融合させたアグロエコロジーで、世界中で学ばれています。ビッグリトルファームの舞台、Apricot Lane Farmでは複数の家畜を飼いました。簡単に紹介しましょう。

・家畜の役割

牛、羊：草食動物なので、人間が食べきれない、利用しきれない「草」を肉、乳などに変わってくれます。いわば4輪駆動の草刈機で、しかも燃料（石油）を補給する必要はありません。傾斜地など草刈りにくいところでも、OKです。

鶏：メスは卵を産んでくれるので、有機農家の貴重な現金収入となっています。この映画の農場でも、卵が飛ぶように売られていましたね。鶏は、雑食動物でウジ（ハエの幼虫）や野菜の害虫を食べてくれます。この農場では、鶏を昼間野外で飼う放牧をして虫を食べてもらっていました。

アヒル、アイガモ：鶏同様、雑食動物で、カタツムリやナメクジが大好物です。鶏同様、昼間は放牧しています。

番犬（ガーディアドッグ）：犬を家畜というと驚くかもしれませんが、ここで登場するグレートピレネーという系統は家畜を天敵から守る番犬でガーディアドッグといい、農場の家畜を守る仕事をしているので家畜です。なお、羊の群れを動かす牧羊犬はガーディアドッグとは違います。

・天敵の役割

鷹、フクロウ、ヘビ、イタチ、アナグマ、テントウムシなどが登場します。鷹はムクドリを、フクロウ、ヘビ、イタチ、そして番犬はホリネズミを捕食します。テントウムシはアブラムシを食べます。天敵は肉食性なので、餌がないと生きていけません。多様な生き物が共存していて、いつも天敵の餌があるから、必要な時に天敵が働いてくれるのです。

・生態系と土壌の回復には時間がかかる

農業の単作化で生態系も土壌も劣化してしまいました。記録映画では生態系と土壌の回復に7年かかりました。日本では有機農法に転換して土壌が肥沃になるのに5年が目安だとされています。実際に、何年で回復するかそれは農法（農業のやり方）次第です。土壌を肥沃にするには、1）カバークロップでいつも土壌表面を被覆する、2）堆肥の施用、3）周辺の茅や落ち葉を集めてマルチするなどの方法があります。

生態系の回復には、どのような農法を取り入れるかでかかる年数が変わり、何年かかるかはよく分かりません。この記録映画では、鷹などの様々な生き物が戻ってきたことが指標となりました。同じように、日本でも指標をもって生態系が回復したとするのが良いでしょう。水田であれば、トンボ類、カエル類、ドジョウ、タガメなどでしょう。

・アグロエコロジーを基礎から学びましょう

記録映画「ビッグリトルファーム」は、農業を通じて自分の理想を実現できることを示してくれました。日本版のビッグリトルファームを実現しませんか。それには基礎知識が必要です。オンラインで、有機農法の学問的基礎、アグロエコロジーを学びましょう。

オンラインセミナー「アグロエコロジー 一般向け入門編（2021年コース）」

開催日時） 2021年10月5日～2021年12月21日、毎週火曜日（全12回）

時間） 20時～22時（講義90分、意見交換30分）

講師） 長谷川浩（理事長、農学博士、日本有機農業学会元副会長）

参加費） 7,000円（セミナー12回、拙著「食べものとエネルギーの自産自消」を含む）
（学生は無料ですが、感想文を書いてもらいます。本は付きません。学生証の写メを提示してください）

オンラインセミナー「アグロエコロジー 農家向け基礎編（2021-22年コース）」

開催日時） 2021年11月4日～2022年2月24日（全16回）

時間） 毎週木曜日 20時～22時（講義90分、意見交換30分）

講師） 長谷川浩（理事長、農学博士、日本有機農業学会元副会長）

参加費） 8,000円（新規参加者は5,000円）

オンラインセミナー「アグロエコロジー 農家向け稲作中級編（2022年コース）」

開催日時） 2022年3月3日～3月24日＊毎週木曜日（全4回）

時間） 20時～22時（講義90分、意見交換30分）

対象） 「アグロエコロジー入門編」修了者

講師） 長谷川浩（理事長、農学博士、日本有機農業学会元副会長）

参加費） 3,000円（新規参加者は2,000円）

それぞれのセミナーの詳細は、4-6ページをご覧ください。

オンラインセミナー

「アグロエコロジー 一般向け入門編（2021年コース）」

「あなたは食べものでできている」というように、食べもので健康にも病気にもなります。地球規模の環境問題も、食べものを作る農業が元凶になっているのです。食べ方を変え、農業の方法（農法）を変えることで、我々も地球も健康になれるのです。農業は生態系であり、食べものなどを供給する生産であり、農家が生計を立てる生業であり、国土を保全して農村景観を創る公共事業でもあります。課題山積の状況だからこそ、基礎から学ぶことで、あなた自身が問題を引き起こす存在から、解決策（ソリューション）になるためにどうしたらいいか糸口がみえてくることでしょう。

セミナー内容

- 第1回(10/5) 地球規模の気候崩壊、生物絶滅、化学物質汚染、水系汚染の危機
- 第2回(10/12) 日本の農業、健康の現状、食べもので健康になれる
- 第3回(10/19) 宇宙、地球、生物、文明、日本の農業の歴史
- 第4回(10/26) 自然生態系、農業生態系
- 第5回(11/2) 栽培植物、家畜
- 第6回(11/9) 種苗、種畜(遺伝子資源)
- 第7回(11/16) 土壌とは
- 第8回(11/23) 共生、害虫、ほか生物間相互作用、
- 第9回(11/30) 植生管理(雑草、カバークロープ)、地域資源の活用
- 第10回(12/7) アグロエコロジーの原理原則
- 第11回(12/14) アグロエコロジーが日本も世界も救う
- 第12回(12/21) 社会をどうやってかえるか?

開催スケジュール、費用など

開催日時) 2021年10月5日～2021年12月21日、毎週火曜日(全12回)

時 間) 20時～22時(講義90分、意見交換30分)

講 師) 長谷川浩(理事長、農学博士、日本有機農業学会元副会長)

参加費) 7,000円(セミナー12回、拙著「食べものとエネルギーの自産自消」を含む)

(学生は無料ですが、感想文を書いてもらいます。本は付きません。学生証の写メを提示してください)

*セミナーは録画しますので、ダウンロードして後日聞き直すことも可能です。

申し込み方法 メール (hasegawa@motherearthresearchinstitute.org) または「母なる地球を守ろう研究所」ウェブサイト (motherearthresearchinstitute.org) から

オンラインセミナー

「アグロエコロジー 農家向け基礎編（2021-22年コース）」

芸術、音楽、スポーツ、すべて基礎力がなければ大幅な向上は望めません。有機農法も同じです。有機農法の基礎として、世界中で学ばれているアグロエコロジーを基礎から学びましょう。農業を生態系と捉えると、土壌、栽培植物、家畜、野生生物が生態系を構成します。生態系には、温度、水分、光、風などの物理的な要因、土壌ではミネラルを保持したり根が吸収するなど化学的な側面も持ちます。農家は管理者として、農業生態系に働きかけます。農業生態系で起きていることは毎日、毎月、毎年、時々刻々と変化します。農業生態系は動的であり、これらの要素が高次に絡み合った究極の複雑系です。基礎力アップで、農家力もアップをしましょう！ さらに、年々激化する極端気象に対する対策についても情報交換します。

セミナー内容

- 第1回(11/4) 地球規模の気候崩壊、生物絶滅、化学物質汚染、水系汚染の危機
- 第2回(11/11) 日本の農業、食、健康の現状
- 第3回(11/18) 宇宙、地球、生物、文明の歴史
- 第4回(11/25) 生物物理化学の基礎
- 第5回(12/2) 食べものと健康
- 第6回(12/9) 自然生態系、農業生態系
- 第7回(12/16) 栽培植物、家畜
- 第8回(12/23) 土壌とは
- 第9回(1/6) 共生、害虫、ほか生物間相互作用
- 第10回(1/13) 植生管理(雑草、カバークロープ)
- 第11回(1/20) 地域資源の活用
- 第12回(1/27) 種苗、種畜(遺伝子資源)
- 第13回(2/3) アグロエコロジーの原理原則
- 第14回(2/10) 持続可能な農法の例
- 第15回(2/17) 人類と日本の未来を考える
- 第16回(2/24) 社会をどうやってかえるか?

開催スケジュール、費用など

開催日時) 2021年11月4日～2022年2月24日(全16回)

時間) 毎週木曜日20時～22時(講義90分、意見交換30分)

講師) 長谷川浩(理事長、農学博士、日本有機農業学会元副会長)

参加費) 8,000円(新規参加者は5,000円)

*セミナーは録画しますので、ダウンロードして後日聞き直すことも可能です。

申し込み方法 メール (hasegawa@motherearthresearchinstitute.org) または「母なる地球を守ろう研究所」ウェブサイト (motherearthresearchinstitute.org) から

オンラインセミナー

「アグロエコロジー 農家向け稲作中級編（2022年コース）」

稲作も土台が大切！ これまで悩まされてきた雑草対策も、水管理、代掻き前の草が生えにくい水田作り、代掻きによる雑草種子の埋没、雑草と競争力が高い苗づくり、田植え後の機械除草と技術の進歩には目まぐるしいものがあります。他にも、水田の土作り、湧かない田んぼ作り、水田土壌と水田雑草の基礎などについてお話します。

セミナー内容

第1回（3/3） 水田雑草と除草法

第2回（3/10） 水田土壌

第3回（3/17） 水田生態系

第4回（3/24） 栽培法の事例

* あらかじめ「農家向け基礎編」を履修してください。

開催スケジュール、費用など

開催日時） 2022年3月3日～3月24日＊毎週木曜日（全4回）

時間） 20時～22時（講義90分、意見交換30分）

対象） 「アグロエコロジー入門編」修了者

講師） 長谷川浩（理事長、農学博士、日本有機農業学会元副会長）

参加費） 3,000円（新規参加者は2,000円）

*セミナーは録画しますので、ダウンロードして後日聞き直すことも可能です。

申し込み方法は、基礎編に同じです。